

あなたの相棒



人間誰しも、大切な人・物・場所があるはず…。府立生野高校写真部の皆さんと一緒に、そんな誰かのかけがえのない「相棒」を紹介します。第27回目は、天美東にある阪南大学で10月28日(土)・29日(日)開催の「阪南大学大学祭」、その実行委員会の皆さん(左から大植さん、梅原さん、谷島さん、戸根さん)です。

みんなが一つになる学園祭

広い通りが広がり、暖色の大きな建物の直線と木々の曲線が交わる。綺麗な芝生のグラウンドでは、ラグビー部員の掛け声が響く。ここは阪南大学。

「こんにちはー」明るく迎えてくださったのは、大学祭の実行委員である4人。実行委員長の谷島さんと副実行委員長の梅原さん、広報部長の戸根さん、そして、模擬・展示部長の大植さんだ。

さっそく、学園祭をする上で高校と大学の違いを実行委員長の谷島さんに尋ねてみた。

「一番大きな違いは、大学では土台から自分たちで作る出すことかな。高校だと、ある程度の軸っていうか、その学校でのやり方みたいなのが決まってるでしょう。大学だと、実行委員が中心になって、ゼロから全部作り上げる感じ」

2月からパンフレットやステージの制作が始まり、準備は約10カ月に及ぶ。それらを支える実行委員会は、企画、タレント、設営などの部署に分かれ、全員で約300人の大組織になると言う。

次に苦労ややりがいについてうかがうと、「人数が多いため、大変なのは情報共有。連絡や相談をマメにやりながら、全体を動かすことですね」と谷島さんは苦笑い。

「でも、300人もの大組織を動かすことや、横だけでなく、先輩・後輩の縦の関係も生かしながら進めるのは、楽しいですよ」と大植さんがしつかりフォロー。

本番は、規模が大きい分来場者も多く、およそ5700人に上ると言う。大人だけでなく子どもも多いそう。

「来場してくれた子どもにも『今年も来たで！』って笑顔で言われた時は嬉しかったですね」と戸根さんは笑顔になる。

最後に忘れられないエピソードについて、谷島さんに尋ねてみた。「1年の時、あるステージの司会担当だったんですが、本番を前にしてパートナーと揉めてしまった。ストレスでじんましんが出て、元々喘息持ちだったこともあり、ドクターストップがかかり…。結局出られなくて、悔しくて涙が出ましたね。それで初めて『本気でやって来たんだな』って実感しました。あの悔しさがあったから、今がんばることが

できているって思います」谷島さんの照れくさそうな顔に、誇りがちらつと覗いた。

大変なこともあれば、楽しいこともある大学祭。「相棒」を聞くと、「やっぱり、部長たち6人ですね。大学祭を成功させる為にはそれぞれの部長が自分の持ち場でいい仕事をしないと…。とても大切な存在です」

取材全体から自信と覇気を感じられた。10月の阪南大学大学祭。大学生たちのおよそ10カ月間の努力を肌で感じてみてはいかがだろうか。

文 阪倉由真(二年)



※今回広報まつばらに載らなかった写真部が撮影した写真は市ホームページで見ることが出来ます。